2020 年度　聖路加国際大学の取り組みに対する意見聴取結果

学生に在学中に身につけさせる学力や資質・能力及び養成しようとする人材像に照らして、教育の成果や効果が上がっているかについて検証するために、本学卒業生の就職先である医療法人（1 法人）に対して意見聴取を行った。

日　時：2020 年 10 月 16 日（金）10:30－11:30（Web 会議）
質問者：学部長、学生支援センター長・教務部長、カリキュラム評価ワーキンググループ委員長
資　料：①次第　②看護学部卒業生（卒後３、５年）アンケート実施報告

①貴院で就業する本学卒業生について、本学ディプロマポリシー（表１）に示される能力が身についているとの印象がありますか

概ね身についている印象だが、強いて言えば、他大と比べ「協働する能力」が弱い。本学卒業生は礼儀正しく控えめで育ちの良さがにじみ出ており、看護へのコミットがあると感じるが、自分が出来てしまう分、他者への気持ちが向きにくいのか、助けを求めてこない傾向がある。やや消極的で貪欲さが他大と比べ少ない。多職種との協働においても一歩引く感じがあり、積極性を持ってほしい。自分中心から、相手を見据え協働する力を身に着けることは大切で、本学卒業生でも３年以上を超えて勤務し、役職に着く方はそれができている。

なお、一昔前は聖路加といえばプライドが高いと言われたことについて、現在ではそのようなことはない。

学士編入生について、当院でも採用しているが、２，３年でやめる方が多い。医療職の常識、世間の非常識という要素がある点に対し、前職との比較で特有のリアリティショックを経験するようである。うまく行っている方は過去に医療職でアルバイト経験があるなどの経験値からうまく適応できているように思う。

②臨床での人材育成の観点から、看護師養成学校の教育内容に対する要望があればお聞かせください

自分の考えを持てるようになってほしい。他者と意見が違っても自分の意見を支持できる根拠を持てること、その根拠を調べられる力が必要。根拠があれば相手と意見が違っても説得できる。

また、人間・生命を尊重できる姿勢を身につけてほしい。根本的な「生」への考え方を根幹にした実習評価や、生命倫理について考える学習機会を持っていいただきたい。

③看護師採用時、成績証明書をどのように利用されていますか。採用時に必要とされる情報の視点から、大学等において測定すべき学修成果の性質についてご意見をお聞かせください

成績だけで採用することはなく、面接を含め全体から見ている。成績書類については、科目構成から各大学の個性、大事にされているものがよく見えるのでまんべんなく拝見している。成績から、当該学生の得意・不得意、好き・嫌いが見えてくるので、その点で参考にしているが、それ自体で合否を決めることはない。

④新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年を含めて数年間、病棟実習の経験の少ない学生が臨床に　出ることについて、看護師養成学校に対する助言があればお聞かせください

（本学の現状として、オンライン授業実施が中心で一部の演習科目は対面で実施、病棟で患者を受け持つ実習は出来ていない、感染対策防止のため学生に飲食アルバイト等を控えるよう指導していることを説明）

当院では例年お受けしている学生実習を出来る限りの範囲で今年も実施し、ベッドサイドでの実習を行っているため、患者と一回も接しない想定はしていなかった。

「実習を経験してきた」という自信をもてないことにどう対応するのかが課題と考える。アルバイトをやらないとのお話があったが、（聖路加の学生だけでなく）一般的に社会性に難がある学生が多いと感じており、学生がアルバイト先で厳しい扱いを受けたり、怒られたりする場は貴重で、自分が思っているほどできない、社会に簡単には認めてもらえないという挫折を経験してほしい。その上で失敗を恐れずやってほしい。「プチ挫折体験」と言えるかもしれないが、そうした体験を積んでほしい。ベテランから注意されて折れる、患者に対し下手な技術を提供すれば怒られる、それを乗り越える力に繋がる。

また、実習ではアセスメント想定して臨んでも、現場でわたわたとし、臨機応変に対応する中で、患者の気持ちを考えて動くとはどういうことかを経験できる。それに変わる場を提供することの難しさはあるように思う。実習での成功体験は非常に重要で、その後、臨床で挫折したときにも、その体験に戻り自己回復できる力となる。悩んだり、挫折したりしたときの対処方法も重要で、そこで自己肯定感が低いとネックになる。自分で自分を認められることが必要である。

（聖路加側コメント：アセスメント力についてのみ言えば、ペーパーペイシェントに対する看護計画をじっくり考える機会は持てていること、成功体験については、聖路加国際病院のナースにカンファレンスに参加してもらっているが、学生の立てた看護計画に対して、臨床の見地実際の患者に対して有効であるとのコメントを学生がもらえたときには、ぱあっと表情が明るくなり、一種の成功体験となっていると考えている。実習はロールモデルに出会うことができる大事な場であり、看護の素晴らしさに触れる、こういうナースになりたいというモデルに出会う、ということが重要である。また、学士４年生の総合実習では臨地実習３日、実習以外の科目の講義２日と言うスケジュールで学ぶが、先週の情報に基づき立てた計画が翌週の実習では役に立たなくても,すぐに修正できるなど期間の長さによらず、短期間でも力をつけることはできるとも感じている。ただし、実習でのしんどさに出会うことができない、人との違いを認識する場がないことは課題である）

⑤④に関連し、貴院で次年度以降の採用試験において、病棟実習の経験時間数が採否に影響を与える可能性　があると考えられますか

実習が少ないことに心配はあるが、当院での採用では問題ない。

上記のインタビュー結果を参考に学内の委員会、会議体で教育活動の改善について検討していくこととなった。

以上